

# ドナウ の 四季

## 2016年・夏季号・No.31

医療と自己責任	盛田 常夫	1
雅楽と日常生活の意外な関係	ポール・アンドレア	2
日本文化に見られる「百鬼夜行」の現象	ナジ・ドーラ	4
日本語とハンガリー語における、犬に関することわざ・慣用句	チサール・カルメン	6
野上 忠興著『安倍晋三：沈黙の仮面の下の素顔』	盛田 常夫	8
留学生自己紹介	森本 美帆	11
	吉田 真樹子	12
	長坂 拓己	14
カーロリ大学日本語プレゼンテーションコンテスト	後藤 将太	15
東京はトキオ、大阪はオサカ	甘利 晴子	18
EURO-2016:2016年サッカー欧州選手権	盛田 常夫	20
みどりの丘日本語補習校「春の遠足」	望月 美和	22
	ヴァシュ せいや	23
	ふかまち ななみ	23

Heat Therapy in Oncology—Oncothermia  
New Paradigm in Hyperthermia  
Andras Szasz and Tsuneco Morita

# 腫瘍温熱療法—オンコサーミア

ハイパーサーミアのパラダイム転換—医術から医学へ

サース・アンドラーシュ / 盛田常夫 [著]



日本評論社

## 温熱治療のパラダイムを転換する

温熱治療を根本から見直し、  
あるべき手法を示した著書。

曖昧な日常知を科学によって解明した画期的な著作。

オンコサーミア治療器は世界25カ国で利用。  
ドイツでは百か所以上のクリニックで、  
韓国の主要な大学病院に設置。

好評発売中。定価3200円+税。  
大手書店、Amazonにて購入可。

### 第4章 腫瘍温熱療法

- 4.1 腫瘍温熱治療の基本概念
- 4.2 ハイパーサーミアの手法
- 4.3 熱の作用と併用効果
  - (1) 熱と血流
  - (2) ハイパーサーミアの併用効果
- 4.4 ハイパーサーミアの熱生成
  - (1) アンテナ放射
  - (2) 磁場(コイル)
  - (3) 容量性カップリング
  - (4) 伝導加熱
- 4.5 ハイパーサーミア治療が抱える問題

### 第5章 オンコサーミアの理論と方法

- 5.1 電場の利用
- 5.2 細胞燃焼
- 5.3 腫瘍治療における細胞加熱
- 5.4 ミクロスコピック加熱
- 5.5 集束化の原理
- 5.6 温度の役割
- 5.7 安全性
- 5.8 積算量(ドーズ)
- 5.9 臨床事例

### 第6章 自然療法としてのオンコサーミア

- 6.1 ホメオスタシスの復位
- 6.2 細胞の自然死の促進
- 6.3 細胞転移の阻止
- 6.4 転移がん細胞に作用

### 第1章 ハイパーサーミアの歴史と評価

- 1.1 ハイパーサーミアとは何か
- 1.2 ハイパーサーミアの曖昧さと課題
- 1.3 ハイパーサーミアの歴史的概観
- 1.4 腫瘍治療のハイパーサーミア

### 第2章 ハイパーサーミアの物理学

- 2.1 電磁気学の基礎概念
  - (1) 電磁気現象
  - (2) 電場と磁場
  - (3) キャパシタ
  - (4) 位相シフト
  - (5) インピーダンス
  - (6) 電磁波
- 2.2 バイオ電磁気学
  - (1) 電磁波スペクトル
  - (2) バイオインピーダンス
- 2.3 「非熱」効果
  - (1) 非温度依存(NTD)効果
  - (2) 電磁場におけるNTD効果
  - (3) 電磁気による目標選択
  - (4) 電磁気と生体システム

### 第3章 ハイパーサーミアの生理学

- 3.1 生体におけるエネルギー、熱、温度
- 3.2 生体における温度制御
- 3.3 生体の加熱と体温
- 3.4 加熱による温度の分布
- 3.5 全身加熱と局所加熱の本質的な差異
- 3.6 加熱と冷却:リスクとその回避
- 3.7 温度測定と熱積算量(ドーズ)

# 医療と自己責任

盛田 常夫

## 痛風の炎症に悩む

私は高校時代から血圧が高く、30歳過ぎても間もない頃から痛風の炎症に悩んできた。ともに遺伝的な疾病だと思うが、とくに60歳を過ぎてから痛風の炎症が頻発するようになって困った。

ハーフマラソンで体を酷使した後遺症でもあるが、怪我で走るのを止めた途端に、膝に炎症が頻発し、七転八倒することになった。膝に痛風の炎症が出ると、膨れ上がって足を動かさなくなる。国立病院の救急窓口に行っても膝の専門医がいる確率はゼロに近い。専門医でないと水の抜き方を知らないから、たいへんな目に遭う。健康保険が効く病院は、コネがない限り、すぐに診察してもらうことは不可能に近い。だから、民間のクリニックに予約を入れ、水を抜いてもらうのだが、専門医の診察日は決まっているから、すぐには診てもらえるとは限らない。その場合はひたすら痛みを我慢して、1～2日待つ。ハンガリーで医師の診療を受けるのは簡単でない。

尿酸生成抑制はアロプリノールという化学成分を使うのだが、腎臓への負担が大きいことが知られている。この薬剤はザイロリックという商品名で流通しており、痛風と言えばザイロリック、炎症の予兆が出ればコルヒチンを服用するというのが一般的な処方だった。しかし、私の場合、ザイロリックはあまり効かなかったし、炎症が出てしまうとコルヒチンもほとんど効かない。腎臓機能の悪化を招いたので、常時の服用を控えていた。だから、定期的な痛風炎症に苦しむことになった。

## 痛風症の新薬

たまたま東京のクリニックで診察を受けた折、高尿酸症の新薬が出たと聞かされた。帝人ファーマの「フェブリック」である。痛風治療薬としては40年振りの新薬になる。これを服用しだしてから痛風の発作(炎症)が止まった。少なくともここ4年以上、痛風の痛みから解放されている。さらに、7～8年もあいだ、右足甲に残っていた恒常的な痛みが、完全に消えてしまった。ヨーロッパではイタリアの製薬会社が帝人ファーマとライセンス契約を結び、Adenuricという商品名で流通している。ただし、日本では1日1回の服用量が20mgか

40mgであるのにたいし、Adenuricは80mgと120mgの二種類の錠剤で販売されている。私は20mgで、しかも間引きしながら服用して効果があるから、ヨーロッパで日本人がこの薬を服用する場合には、錠剤を割って服用する必要がある。体格の違いがあるとはいえ、欧米の服用量は日本のそれに比べて非常に高い。要注意である。

いかに効能がある薬とはいえ、副作用のない薬は存在しない。西洋医学の薬剤は基本的に化学薬品である。特定の因子に作用することによって、当該の疾病を引き起こす要素やメカニズムを阻害する。その特定因子の阻害効果が、正常に機能している人体の他の器官や作用に悪影響を与えるのが副作用である。服用量と服用頻度によって、副作用の発現は異なる。服用量が大きくなり、服用頻度が増せば、副作用のリスクも高まることは言うまでもない。

## 血圧降下剤

私の場合、降下剤を服用しないと、180mmHgまで上がる。ただ、経験上、ノルバスクは降圧効果が低く、10～15mmHg程度の降圧効果しなかない。かといって、定期的に高い服用量を維持するのは腎機能の低下を招くので、医師の提言を受けず、自分なりに間引きして服用していた。

こう書くと、医学を否定するかのよう聞こえるかもしれないが、医師は種々の薬剤の副作用や複数の薬剤の相乗副作用について、何の責任もとれない。「この薬は一生飲んでください」という医師を私は信用しない。既述したように、所詮、薬剤は化学薬品である。それは人体機能の一時的な不都合を除去するために、一時的に服用するから薬なのであって、それを常用してしまえば、化学薬品の補助なしでは生きていられない片輪な生体になってしまう。

人体は複雑な自己制御システムをもっており、正常機能への回帰を制御する高度なホメオスタシス(恒常性)機能をもっている。もしこれが失われれば、生体は生命の危機にさらされる。何らかの原因でホメオスタシスへの回帰が阻害された時に一時的に必要なのが、医療である。だから、医療は手術であれ薬剤

投与であれ、ホメオスタシスの回復を助けるための、人体機能への一時的な「介入」にすぎない。ホメオスタシスが回復されれば、早急に治療を終える必要がある。さもないと、副作用の影響が大きくなるか、薬なしでは生きられない片輪な体になってしまう。

東京のクリニックで新たに処方された降圧剤が、「アジルバ」と「アムロジン」の組合せである。私の場合、この組合せだと、収縮期血圧は150mmHg程度に抑えることができる。それでも、私はこの薬剤を常用しない。かなり間引きしながら使っている。

血圧降下剤とフェブリックを一緒に飲むこともしない。まとめて何種類もの薬を一緒に飲んでいる人は多いが、これほど馬鹿なことではない。まとめて服用された化学薬品が胃や腸で、どのような相互化学反応を惹き起こしているのかを想像しただけでも恐ろしい。こんな薬の飲み方は、「百害あって一利なし」だ。

そもそも、高血圧症の患者が日本人の半数もいるという状態がおかしい。何万年もかけて進化してきた人間の半数が病人であるはずがない。人為的な操作が数多くの病人を人工的に作り出しているはずだ。正常血圧の範囲を少し狭めるだけで、年間何百万千万人の患者が作り出される。1987年までは180/100mmHgの範囲であれば問題なかったのが、2004年に140/90mmHgに下げられたために1000万人以上もの患者が作り出され、現在では130/85mmHgを基準としているために5000万人を超える人が高血圧症と認定される事態に陥っている。

この結果、降圧剤の薬剤市場は、日本では年間1兆円の最大の薬剤市場になった。製薬会社と医師がグルになっているのではないかと勘ぐられても仕方がない。薬は勤勉に服用するものではないはずだ。調子が悪いときだけ、服用するから薬で、毎日服用してしまえば毒である。最近、厚労省から血圧降下剤の副作用の改定指示がでて、私が服用しているアジルバやアムロジンでも、稀にとはいえ、重症の副作用が起きることが記載されるようになった。薬漬けにならないように、自己防衛することが必要な時代である。

(もりた・つねお 「ドナウの四季」編集長)

## 雅楽と日常生活の意外な関係

Pór Andrea

日本語学習者なら誰にでも、日本語を始めるにあたっての何らかの印象深いきっかけがあるはず。そして現在カーロリ・ガーシュパール大学で勉強している私にとっては、今でこそ無数の日本語を勉強する理由がありますが、日本語と出会うそもそもの「きっかけ」となったのは、実は日本古来の儀式的な音楽、雅楽だったのです。

カーロリ大学に入ってから約2年間たっても雅楽への興味は薄れず、むしろ強くなっていくばかり。この雅楽という普通なかなかふれあう機会がないはずの音楽を見つけて好きになったことの背景には、家族全員が何らかの形で音楽にかかわっていることがあると思います。母はバイオリンの教師で、父は音楽図書館で働き、4人の兄弟はフルートやバイオリンを弾き、私も幼いころからファゴットという木管楽器を習っています。だから音楽への姿勢、こだわり、そして聞き方も普通とは少し異なります。

ドレミファソシから四番目のファと七番目のシを除いたドレミソの五音をソドレミに変えて雅楽や古い民謡で用いる旋律法です。

それから楽器なら広い2オクターブの音域をもっている低い音から高い音の間を縦横無尽に駆け抜ける、その音色が「舞い立ち昇る龍の鳴き声」と例えられ、それが名前の由来となった箏笛や、合奏全体の音色を包み込むように翼を立てて休んでいる鳳凰に見立てられる珍しい形の笙があり、これらすべて欧米には存在しない濃い雰囲気を持つ楽器で、一度聞いたら耳から離れなかったのです。

ほかに西洋音楽との主な違いといったら、まずはチューニングについて説明しなければなりません。ご存知の通り、オーケストラではチューニングはAの音で行います。雅楽ではこのAの音に相当するのは前述の笙と言う楽器が出す黄鐘とよばれる音です。音の高低を表すピッチという単位で

この偶然出会って大好きになった日本の伝統音楽、雅楽では、日本人の揺るがない落ち着きが反映されているように思われます。

### 雅楽の用語

雅楽というと「普通の生活に馴染みのない退屈な音楽」という印象で受け取られがちですが、実は日本人が日常的に使っている言葉の中では雅楽の用語がたくさんあり、決して一般の生活とかけ離れたものではありません。私は雅楽由来の言葉を、卒論のテーマに選んだほど好きなので、ここではそのような言葉の中からいくつか紹介してみたいと思います。

代表的なのは「調子がいい、悪い」、または「調子をあわせる」の「調子」です。もともと雅楽の一種の前奏曲であったものが、現代では広い意味で使われるようになったそうです。

それから「打ち合わせ」という非常によく耳にする言葉があります。これはもともと雅楽の合奏の時に打楽器を打って他の楽器とうまく合わせることを「打ち合わせる」と言っていたことから、都合良く物事が運ぶように前もって相談しておくことを「打ち合わせる」と言うようになったのです。

「やたら」という言葉もそうです。「やたらに多い」「やたらめつたら」など「むやみに」という意

味で用いられます。もともとは、雅楽の拍子の一つである「やたら拍子」に由来する言葉です。「やたら拍子」とは、わかりやすく言えば2拍子と3拍子が交互に現れる混合拍子で、入り交じっているために演奏に困難をきたしたと言われています。そのため、演奏がなかなか、途中でバラバラになってしまうことが多かったそうです。それで、秩序がなく、まとまらない様子を表す「やたら」と言う言葉が使われるようになったという

### 雅楽の特徴

高校生のころ、多くの国の楽器の響きを調べることにはまり、あるとき日本の伝統的な音楽、その中でも最も古い歴史を持つ雅楽に出会ったのです。雅楽は大陸から伝わった音楽や舞と、日本古来のものが融合して9世紀に成立したものです。約100年かけて確立され、現存する「世界最古の管弦楽」といわれています。

雅楽のゆったりとした独特なメロディーの流れを聞いたとき、西洋の音楽教育を受けた私にとって非常に不思議で、まるで時を越えた別世界からの響きのように思いました。雅楽には西洋音楽にはない魅力的な芸術要素がたくさんあります。いくつかの日本独特な点の中から私が最も影響を受けたところは音階と様々な和楽器です。

たとえば「呂旋法」、またはヨナ抜き音階と称されている音階は、西洋の長音階の

言うど西洋音楽のAのピッチは442なのに対し、黄鐘では430なのだそうです。この基準音の違いが、西洋音楽と違った雅楽の独特な雰囲気を醸し出しているのかもしれない。

そしてこれは、音楽一家に生まれてクラシック音楽を日常的に聞きなれている私の個人的な意見ですが、西洋音楽には穏やかな中にも激しい一面が表れていたりと、喜怒哀楽が表れているのに対して、





ことです。

その他に、酔っ払って、舌が回らずまともな会話ができない様子のことを意味する「ろれつがまわらない」という言葉は前述の雅楽の「呂旋法」と「律旋法」がもとになってできた言葉です。この二つの音階の名称は、まとめて「呂律(りよりつ)」と言われていました。演奏者が演奏しようとして楽譜を見てもその「呂律」の音階が煩雑で、音階が合わなかったり、どちらの音階なのか訳がわからなくなったりしていました。そのようなことを「呂律(りよりつ)が回らない」と言って、やがて、「りよ」が変化して、「ろれつがまわらない」になって、うまく話せないという意味で「ろれつがまわらない」という表現が使われるようになったといえます。

また、左利きを表す「ぎっちょ」がもとは雅楽用語ご存知だった方も少ないのではないのでしょうか。自分も左利きだけに、この、今ではあまり使われなくなってきている言葉の由来を説明したいと思います。雅楽では「打球楽」(だきゅうらく)という曲があります。現在では4人の舞人によって舞われる装束の華麗な舞です。この舞では二つの舞具が使われます。一つは「球子」(きゅうし)と呼ばれる宝球型の球です。もう

ひとつ、「毬打」(ぎっちょう)というものを皆右手に持っています。これは木製で、およそ80センチの彩色した、先の曲がった杖状の物です。曲の後半で、一郎、つまり舞人は懐から「球子」を取り出して舞台に置きます。昔のある時、高貴な方が「打球楽」の一郎を勤めたとき左手に「毬打」を持って舞台に登ろうとしたそうです。皆驚きましたが、やはりいつだって偉い人が間違ったことをしていても、なかなか注意しにくいものです。

その時も目と目で非難しながらも、誰一人として注意することができなくて、その貴人はそのまま舞台に登り舞い終えたといわれています。後日皆はそわそわして以下のように囁き合いはじめました。「あの御方は左手に毬打を持って舞った」、「左に毬打を持っていた」、「左に毬打」「左毬打」。こうして「左ぎっちょう」という言葉が出来たそうです。

今年の3月17日に行われた「ハンガリー日本語スピーチコンテスト」でも「雅楽」をテーマとしたスピーチをし、上記のような雅楽についての知識を披露したところ、ある日本の方々から「今まで気がついていなかったことを知ることができた」とか、「まさ

か雅楽のような古代文化の一部が現在にでもこれほどの影響を与えていたとは思ってもしなかった」などのお言葉をいただいて、非常にうれしく思いました。

私は今学期、日本への留学試験を受けました。留学の目的はもちろん「雅楽についての卒業論文を書くための資料を集めること」と「雅楽に関する知識を深めること」です。できれば雅楽に関するさらなる知識を集めることだけではなく、実際に本物の雅楽に触れる体験をしてみたいという希望も持っています。そして雅楽について調査をするには、さらに高い日本語能力が必要になるでしょう

留学できるかどうかはまだ決まっているわけではないのですが、すべてうまく行けば今年の10月から日本での大学で授業を受けられるはずで、日本への留学という夢がかない日を今から楽しみにしつつ、その前にできる限り日本語力を高めるための努力をし続けたいと思います。

(ポール・アンドレア)

# 日本文化に見られる「百鬼夜行」の現象

Nagy Dóra

私が初めて日本の民話を聞いたのは子どものときでした。母が寝る前に「さるかに合戦」という話を読んでくれたからです。ハンガリー語で読んでくれたので、それが日本の民話だと知らなかったのですが、ハンガリーのテレビのおかげで9歳になるともう日本のテレビアニメのファンになりました。色々なシリーズを見て、日本における話し方や書き方、文化、学校で着る服までハンガリーのと全然違うということを見ました。「日本ってすごい!同じ地球に存在しているのに、まるで別の世界みたい!」と考えて、日本に惚れこみました。私は絶対に日本語を勉強して、日本と関係ある仕事をしたいと決めました。それから数年が経って、私は《自分》を探したり、その決めた道を迷ったりしたけど、結局ここにいます。エルテ大学の日本学科の3年生で、もう卒業論文も書きました。

私が日本に興味を抱くようになった理由は、ただハンガリーと違うということだけではありません。日本の様々な民話や伝説、昔話、神話などを読んで、その神秘的な生き物についても興味がわきました。水に住んでいる亀のような河童、山の森にいる強い天狗、家を守る座敷童子。そして、それ以外にもいくつかの特別な妖怪のおかげで、私にとって日本全体が神秘的な国になりました。ですから、卒業論文も妖怪について書きたいと思いました。たくさんのお話を読みましたが、どれも非常に面白くて、素晴しかったので、どの妖怪をテーマとして選んだ方がいいか決められませんでした。しかしある日、「百鬼夜行」という現象についての記事を見つけました。この現象では1人の妖怪だけではなくて、多くの妖怪が参加しています。それで、私は「百鬼夜行」を卒業論文のテーマにしました。

さて、「百鬼夜行」とは何でしょうか。漢字を見たら大体想像がつかます。「百鬼夜行」は大勢の様々な妖怪が夜の間に祭りのように一緒に行列する現象です。

この現象が日本の文学に最初に出てく

るのは、11世紀の『大鏡』という歴史物語です。この物語には藤原師輔が妖怪の行列と出会ったということが書いてありますが、現象については、恐ろしかったということ以外には何も述べられていません。行列は同時代の色々な説話や日記にも登場しますが、やはり参加している妖怪の外見や行列の特徴については何も書かれていません。しかし、平安時代の「百鬼夜行」が出てくる文献には共通点があります。それは、現象と出会った人はみんな藤原家の人だったということです。

行列に参加している妖怪の外見についての記述が出てくるのは、12世紀からです。説話集や物語集で、化け物の色々な面白い特徴が述べられています。例えば手三つ、足一つ、目一つの鬼が行列に参加していると書かれています。

中世になると現象についてもっとよくわかるようになります。「こぶとりじいさん」という昔話について聞いたことがある方は多いと思います。顔に瘤がある爺さんが鬼たちの宴会を見て、一緒に踊り始めました。鬼たちはその踊りが気に入ったので、爺さんが次の日もまた来てくれるように、瘤を取ってあげました。

実は、その宴会が「百鬼夜行」でした。現代でもアニメや絵本で有名なこの昔話ですが、中世の時点でも、鬼たちは肌が赤、または黒い色で、頭に角があった、という記述があります。でも、私が参考にした中世の文献で一番面白いと思っているのは、『拾芥抄』という百科事典と、『暦林問答集』という方位と暦に関する本です。ある論文でこの2冊に百鬼夜行が出てくるということを読んで、実際に出てくる自分を自分で見つけて、大学の先生の協力を得て翻訳しました。この中では、「百鬼夜行」が行われる日と、妖怪たちを脅しつける和歌が書かれています。お化けの行列が現れる日は、子、牛、巳、戌、未、そして辰の日の夜です。妖怪たちを脅しつける和歌は、一つの文字以外はカタカナで書かれています。「カタン

ハヤ・エカセニクリニ・タメルサケ・テエヒアシエヒ・我シコニケリ」。意味は何だと思えますか。実は、もう誰も知りません。色々な説がありますが、元の意味はもう失われているそうです。

ここまで文献について書きましたが、「百鬼夜行」は様々な絵にも登場しました。一番古く、そして同時に一番重要なのは「百鬼夜行図」という16世紀の絵巻です。この作品には数人の恐ろしい妖怪が描いてあり、中には「付喪神」という妖怪もいます。「付喪神」とは百年以上使われた色々な道具や服、楽器に神や魂が宿って、それが動けるようになったものです。どうしてこの絵巻が一番重要かという点、これ以後「百鬼夜行」について描かれた絵のほとんどはこの作品の妖怪を真似したものだからです。そして、これ以降の絵には、妖怪だけではなくて、他の共通点もあります。例えば、鬼たちは太陽の光が苦手だということをご存知でしょうか。絵巻の右側では、妖怪たちが走り回って色々ないたずらをしています。左側の端では朝日が光っているので、妖怪たちは逃げて、行列が終わっています。

日本の妖怪文化はハンガリー人にとって今まで知らなかった神秘的な世界を見せてくれます。そして、私が卒業論文のために日本人を対象にして作ったアンケートによると、これはハンガリー人にだけではなくて、多くの日本人にも不明な世界のように見えます。なので、最初はだれにとっても恐ろしく見えるかもしれませんが、本当は怖がることなんかない・・・かもしれません。

(ナジ・ドーラ)



## 日本語とハンガリー語における、 犬に関することわざ・慣用句

Csiszár Carmen

「犬も歩けば棒にあたる」、「蛙の子は蛙」、「猿も木から落ちる」。このようなことわざや故事や慣用句などを気づかないうちに日常生活で口にしたり耳にしたりすることが多いです。外国語を学ぶ時、ことわざや慣用句などをきちんと勉強するのは特に大切なことだと思います。どうしてでしょうか。それは日常生活でよく使われることわざ・慣用句が、言語によって、同じ意味でも違うように表されることが多いからだと思います。みなさんは、ある外国語が同じことわざをどのように表すのか、知りたくありませんか。その外国語における表し方は自分の母語における表し方とどのくらい違うのでしょうか。私は卒業論文で、その質問の答えを探しました。

さあ、卒業論文を書くためのいい質問は見つかりましたが、書き始める前に、テーマを絞らなければなりません。長い間、「どのようにすればいいだろうか」と考えました。結局、私の好きな動物、犬に関することわざ・慣用句について研究することにしました。犬を選んだのにはほかにも理由があります。人間は犬と古代から特別な関係を持っています。約1万年前に人間は犬を野生動物から家畜にしました。時代と共に、犬は人間の生活の一部、そして人間の文化の重要な一部になりました。

でも、犬に関することわざを研究する前に、ことわざ・慣用句の定義や種類や使い方について調べなければなりません。様々な論文や大辞典などを読んで、「ことわざ」と「慣用句」がハンガリー語に存在している「közmondás」と「szólás」という文法的なカテゴリーに非常に似ていると気づきました。これを見て、改めて日本語とハンガリー語の比較について述べる論文を書こうと決めました。

その後、やっと犬に関することわざについて研究し始めることができました。初めに、ハンガリー語と日本語における、犬に

関することわざ・慣用句の比率を調べました。結果は次の通りです。ハンガリー語では、動物を用いたことわざ・慣用句の中で、犬が登場するものは全体の22.4%です(O. Nagy Gábor, Magyar szólások és közmondások, 1982)。一方、日本語では6.4%です(朱 銀花「日・中・韓三国の言語における犬文化の考察」歴史文化社会論講座紀要、2009年)。相違の理由には意味論的理由や文化的な理由があると考えられます。

次に、日本語とハンガリー語におけることわざ・慣用句は犬のことを肯定的なキャラとして表しているか、それとも否定的なキャラとして表しているかについて研究しました。この分析の結果に私はびっくりしました。日本語もハンガリー語も同様に、犬に関することわざ・慣用句には否定的なものの方が肯定的なものより多いです。ことわざ・慣用句では犬は大体下等で、臆病なキャラや裏切り者として登場します。例えば、「飼い犬に手を噛まれる」、「家の前の痩せ犬」などです。このようなことわざ・慣用句の数は日本語では68%、ハンガリー語では83%です。現在、人々は犬と聞くと、可愛さや、忠実さや、従順さなどのようなポジティブなことを連想するので、この結果はとても思いがけないことだと思います。

次に、日本語とハンガリー語における犬に関することわざ・慣用句の共通点と相違点を研究しました。この分析にForgács Tamás(フォルガーチ・タマーシュ)という研究者による方法を用いました(Forgács Tamás, Bevezetés a frazeológiába, 2007)。その方法によると、二つの言語で共通する表現は全体の55.9%です。一方、異なる表現は44.1%です。日本とハンガリー間の言語上の相違や文化的な相違から見て、このような高い割合の一致は意外だと思います。意味も言い方も同じことわざは例えば次の三つです。

「吠える犬は噛みつかぬ」(Amelyik kutya ugat, az nem harap)

「犬と寝る者は蚤をしょって起きねばならぬ」(Aki kutyával hál, bolhásan kél)

「犬も食わぬ」(A kutya sem eszi meg)

結果として、日本語とハンガリー語のことわざ、慣用句の間には、様々な類似点と相違点があることが分かりました。また、相違点より、類似点のほうが多いことが分かりました。正直に言うと、私はその結果を予想しませんでした。これは「すべての疑問は重要だ」ということの良い例えだと思います。どんなに答えが明らかに見える疑問でも、調べたら、とても興味深いことが分かるかもしれません。そして、新しい知識と次の疑問を持って前に進むのは非常に大切なことだと思います。私はこれからも色々な質問に対する答えを探して、自分の知識を広くしたいです。

(チサール・カルメン)



## 野上 忠興著『安倍晋三：沈黙の仮面の下に素顔 —その血脈と生い立ちの秘密』（小学館、2015年刊）を読む

盛田 常夫

よりによって、安倍晋三本を読むなど、馬鹿らしいと考える人は多いだろう。私自身、知性と教養に欠け、しゃべりが下手で舌足らずな安倍晋三に、人間的魅力など一欠片も感じない。ところが、並の政治家にすぎない安倍が何重にもかさ上げされた評価を真に受け、高飛車な言動や政策を実行している。将来の日本に禍根を残すだけの政治家が、高い評価を受けている奇妙な社会現象こそ、私の関心事である。だから、その生い立ちを知り、歴史観や社会観の浅薄さを再確認し、そういう人物に国の将来を託す過ちを明確にすることに意味があると考えている。それが本書を取り上げる理由である。

### アメリカの心配をする暇はない

国会で絶対多数を得て、安倍晋三は戦後政治で無視され続けてきた日本の極右の政治家や知識人の神輿に担がれ、ラストチャンスとばかりに集団的自衛権の容認や憲法改正へ突き進んでいる。一つのことには突き進める人物こそ、右転換の政策推進の神輿に乗せるのに適任だ。なまじ知性がある、深い哲学や歴史・社会観をもつ人物は、猪突猛進型の政治的突破の障害になる。昔から、ほとんどの独裁的政治指導者は浅はかで平凡な歴史・社会観を持つ人物だ。そういう人物を祭り上げて背後から指図する態勢を作るのは何も政治の世界だけではない。実業の世界でも、無能な社長を担ぎ上げ、自在に操る手法が存在する。安倍晋三の場合、唯一のレーゾンデートルである右旋回思考と背後の極右派勢力との利害が一致し、右展開の相乗作用が働いている。この神輿に乗る安倍晋三なる人物がどんな環境でどう育ち、将来の日本に大きな禍根を残す政治家となったのか、私の関心はそこにある。

今、アメリカの大統領予備選で、アメリカの世論は沸騰している。トランプの言動に、日本の保守政治家や外務省幹部は戦々恐々としている。政治家も政府もアメリカ追随の従属関係に取り込まれているから、その関係が崩れた先の世界を見通せないからだ。アメリカも日本も政治家の質は高くない。近代の立憲君主制の時代や建国の時代の賢人政治家たちと違い、現代の政治家は国や国民の百年の計を考え、自らの資産を擲(なげう)って国の政治にあたる人々ではない。トランプであれ安倍であれ、皆、目先のことしか眼中にない近視眼的政治家だから、知性や歴史・社会観の質に大差ない。

アメリカの心配をするより、自分の国を心配した方がよい。現在の閣僚の中には、大学時代から銀座のキャバレーに通い、勉強な

どろくにせず、だから漢字もよく読めない政治家が要職を担っている。また、大学時代にアルバイトに明け暮れ、勉強する時間もなく、卒業してすぐに政治家の書生になった人物が、内閣を取り仕切っている。目先の政策や党内の根回しには長けているが、とても国家百年の計を考えられる知性など持ち合わせていない。政治家というより政治屋である。そういう人物が一時的な景気高揚のために公金を湯水のように無駄遣いし、日本をアメリカの軍事政策により一体化させようとしている。馬鹿な政治家が浪費した付けや誤った軍事・外交政策は、10年20年後、いや50年100年後の国民がすべて引き受けなければならない。騙した政治家が悪いのか、騙された国民が悪いのか。どっちもどっちだが、アメリカの心配をする暇があったら、日本の将来を心配した方がよい。目先のことしか考えない馬鹿な政治家を抱けば、国は滅びるだけだ。

### 父母の愛情を受けられなかった幼年・少年時代

安倍晋三の言動や表情から、人としての情や、心からの思いやりが感じられないのは私だけではないだろう。その態度と発言は、常に、よそよそしく、率直さが感じられない。何事を語っても、気持ちを感じられない。本書は「沈黙の仮面」と形容しているが、安倍晋三に人を欺く仮面や知恵があるとは思えない。彼の言動は素顔そのものである。

安倍晋三の言動から、感情を表に出すことを憚る意識や、家庭の温かいぬくもりを知らない環境があったのではないかと推測される。人の性格や感情形成に幼年期や思春期の家庭環境、学校環境が影響していることは間違いない。

本書の著者野上氏は福田派と安倍派の番記者として、安倍晋三とも親しかった。本書を描けたのも、安倍家との関係が深かったからだ。安倍家の内情に詳しく、安倍の乳母だった久保ウメから、晋三の幼年期から思春期にかけての家庭状況や精神的発育の状況を詳しく聞いている。日本の政治家の家庭の様子が手に取るように分かる。

晋三は親の愛情を注がれて育っていない。日本の政治家は、昼夜を問わず、支援者や政治家との付き合いに飛び回っている。安倍晋三は子供に愛情を注ぐ時間を削って政治活動に没頭し、母は支援者回りに勤しんでいたから、二人の兄弟の面倒は乳母が見ていた。添い寝をしたのは母ではなく乳母のウメだった。だから、安倍家の親と子供の間にはきわめて冷めたものだったことは容易に想像される。

もっとも、長男の寛信は最初の子供だったこともあって、両親からそれなりの愛情が注がれたようだが、次男の晋三が生まれた頃には晋太郎の政治活動が繁忙を極め、父母の愛情を受ける機会がなかった。幼児期における親の愛情不足は子供の情緒を不安定にし、人を思いやる感性を育まない。

父母に代わって晋三をかわいがってくれたのは、母方の祖父岸信介である。晋三が父晋太郎より、祖父である岸を慕う原点がここにある。しかし、三男の信夫が生まれてから、この関係も大きく変わった。信夫は生まれて間もなく岸家に養子に出されたからである。岸信介の愛情もまた、晋三から信夫に移っていったのは自然なことだが、晋三には弟に祖父を取られたという意識が芽生えたことは疑いない。

人としての安倍晋三の心理と感性の形成は、このような複雑な家庭環境に大きく影響されている。

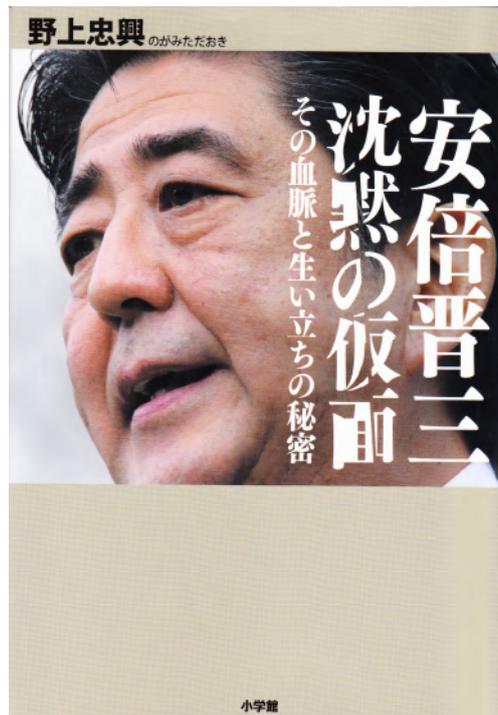
安倍家の長男寛信と次男の晋三は、性格が対照的だった。冷静な長男に比べ、晋三は口数も少なく、学業成績も良いとは言えなかった。だから、当然、政治家を受け継ぐのは長男だと考えられていた。こういう兄弟関係もまた、晋三の心的形成や精神的な成長に大きな影響を与えた。

安倍家や岸家が輩出してきた政治家は東大法学部卒のエリートだが、晋太郎の息子3名は皆、私立大学の付属校に入学し、エスカレーターで大学まで進学した。ただ、兄の寛信は晋三と同じく成蹊大学を卒業したが、その後、東大大学院へ進学した。また、養子に出された弟の信夫は慶応大学経済学部を卒業した。晋三が大学進学を迎えた時期に、父晋太郎は「大学は東大しかないんだ」と、分厚い漢和辞典で晋三の頭を叩くことが何度かあったという。もともと学業を期待されず、偏差値が高いとはいえない付属学校をエスカレーターで上がってきた晋三には、とても実現できる目標ではなかった。物心ついてからの晋三は徐々に学歴コンプレックスに悩まされていたはずで、父からの難題は、晋三に東大嫌いのコンプレックスを植え付けただろう。

そういう晋三が政治家として晋太郎を継いだことには理由があった。無口で目立たない子供だったが、ツボにはまるテーマでは人が変わったように持論を守り、かんたんに引かずに相手を論駁することがあった。そのテーマこそ、尊敬して止まない祖父岸信介が孫に語った日米安保条約の正当性である。生半可に安保条約を否定する同級生にたいして、逆に問い詰め、論破することがあり、同級生を驚かせたエピソードが語られている。

簡単に首を縦に振らず、納得できないことには絶対に「分かった。ごめんなさい」と言わない頑固さに、父晋太郎が政治家の資質を見たという。事を荒立てないように、すぐに親に謝る長男寛信より、納得できなければ口を固く閉じ、謝らない晋三の方が政治家向きだと考えたようだ。安保法制がいかにも不合理だと論破されても、頑なに持論を守る姿勢に通じる。二度も首相の座を射止め、学歴に及ばない兄と弟を出し抜いたことをさぞかし自負していることだろう。

もっとも、この程度で政治家の跡継ぎが決められるのかとがっかりさせられる。政治家に求められる資質とは、少なくとも日本ではこの程度のものである。同じ土俵で闘うことを避け、頑なに持論にしがみつくなのは、たんに「愚鈍」なだけではないか。



### 中途半端な青春時代

安倍晋三は他人の言動を理解しようという姿勢に欠ける。議論を戦わすことを避けて、思い込んだことを一心に貫こうという頑なさがある。批判から学ぶことがない。それは自らの論理を展開し、相手を論破するだけの自信がないからである。頑なさが安倍の政治的資質だとすれば、それは確固とした思想や歴史・社会観がないからである。だから、思い込みを一途に守るという頑なさと同時に、目先の利益のために簡単に基本政策を曲げることも通じる。深い勉学に裏付けられた信念や思想がないからである。

著者の野上氏は安倍晋三の政治姿勢に危惧を抱いている。深い議論や思想に

基づかないで、戦後日本が守り続けてきたものを簡単に崩してしまふ政治手法のベースには、安倍の勉強不足があるという。安倍の政治姿勢に柔軟性がなく、乱暴な政治手法を厭わないのは、深い歴史観や社会観を形成し鍛える勉強を経験していないからである。野上氏が大学時代の恩師の一人にインタビューした時の返答が、それを物語っている。

「安部君は保守主義を主張している。それはそれでいい。ただ、思想史でも勉強してから言うならまだいいが、大学時代、そんな勉強はしていなかった。まして経済、財政、金融などは最初から受け付けなかった。卒業論文の枚数も極端に少なかったと記憶している。その点、お兄さんは真面目に勉強していた。安部君には政治家としての地位が上げれば、もっと幅広い知識や思想を磨いて、反対派の意見を聞き、議論を闘わせて軌道修正すべきところは修正するという柔軟性を持って欲しいと願っている」。

晋三の学歴に箔をつけるために計画されたのが米国留学である。現在は削除されているが、長い間、安倍晋三の公式HPには、

成蹊大学法学部卒業後、南カリフォルニア大学政治学科に2年間留学という履歴が掲載されていた。最初の1年は大学外の語学学校に通い、2年目から大学に通ったとされるが、専門科目の単位は1単位も取得していないという。要するに、この留学は正式な大学入学ではなく、外国人用に設置されている英語コースに数セメスター在籍しただけのようだ。受講料を払えば、誰でも受けられるコースである。勉学に勤しむどころか、ホームシックにかかり、日本の家に頻りに電話するので電話代がかさみ、父晋太郎に叱られたエピソードなどは週刊誌などで詳しく報道されているのでその顛末は記さないが、安倍は米国留学を中途半端な形で終え、挫折感を抱えながら日本に戻った。

ちなみに、同様の留学詐称は、漢字が読めない麻生太郎も同様で、学習院大学卒業後、スタンフォード大学大学院とロンドン大学政治経済学院に留学した履歴がHPに掲載されていた。しかし、これも現在、完全に削除されている。安倍の留学と五十歩百歩だったのだろう。

安倍はアメリカから帰国後、父晋太郎のコネで神戸製鋼に入社した。しかし、期限付きのコネ就職で入社した人物など、会社にとってお荷物以外の何物でもない。安倍晋太郎の顔を潰さないように、腫れ物を触るように扱う社員にできることは限られている。このよそよそしい会社員生活も2年ほどで終わってしまった。なんとも中途半端な青年時代だ。

晋三は中途半端な大学・留生活や社会人生活を経験しただけで、父晋太郎の秘書になった。そのような柔な人物が政治の世界で活躍できる余地はなかったが、父晋太郎の政治的遺産が自民党を代表する政治家に押し上げた。

本書には安倍晋三がどうやって百戦錬磨の政治家がひしめく自民党をのし上がることができたのかが詳しく描いているが、それに興味はない。関心ある読者は本書で確かめることができる。

### 確信に欠ける主張と目先の関心

第一次安倍内閣で終わっていれば、安倍晋三の人生は誰の目から見ても、すべてにおいて中途半端な人生に過ぎなかった。ところが、満を持して再登板した第二次安倍内閣はアベノミクスと安保法制で、安倍晋三はついに「中途半歩」を克服し、変身したかの

ように見えた。それまでの中途半端な人生に一矢を報いたかに見えた。しかし、安倍晋三は基本的に何も変わっていない。

安倍晋三とそれを支える極右派は、戦前の日本の侵略や植民地支配を否定するという歴史修正主義と、円安誘導と株式市場の高揚のためにあらゆる政策を動員するという近視眼的経済政策に依拠している。景気高揚感を醸成し、政権への国民の支持を確固なものにしてから、憲法修正へと道を進める予定だった。その過程の中で、戦後70年の節目に村山談話を否定する談話を狙っていた。しかし、談話の諮問機関である「21世紀構想懇談会」の北岡伸一座長代理から、「侵略を否定することはできない」と主張され、本意にも、文言上は村山談話のキーワードを羅列せざるを得なかった。もっとも、これは安倍晋三の確信のなさというより、日本の極右勢力の歴史観や社会観の脆弱さを示したものだ。極右の論客は安倍談話を後退させた北岡氏を批判したが、まともな学者であれば、右派であれ左派であれ、戦前日本の帝國的侵略や植民地支配を否定することはできない。安倍談話が中途半端に終わったのは偶然でなく、安倍晋三の浅はかな思いが露呈されただけのことだ。

経済政策においても、馬鹿の一つ覚えのように、デフレ脱却と景気高揚を唱えるだけで、これからの50年、100年を見据えた社会経済政策など思いもよらない。一時の現象に拘り、本質を見失っては道を誤る。もっとも、これは安倍の責任というよりは、短期的思考の経済政策しか考えつかない安倍内閣御用達の経済「学者」の責任だが、安倍にとって、国家百年の計を考えるより、公金を使って株式市場を押し上げる方が理解し易いだけのことだ。一時的な株高と円安に、「してやったり」と上機嫌になっていたが、日銀資金を野放図に国債市場に投入し、年金資産を株式につぎ込んで大きな損を抱え込むのは、親が築いてきた資産を馬鹿息子が博打ですってしまうのと同じだ。一時の儲けに目がくらみ、全財産をすってしまっただけで元も子もない。選挙で負けるから、消費税の引き上げを再延期するのも同じ思考である。安倍晋三の浅はかな思考はまったく変わっていない。そういう政治家に国の将来を任せている国民は、政治家を見る目がないと言われても仕方がないだろう。

トランプ大統領の出現に一喜一憂するより、馬鹿な政治家が将来の日本に残すべき資産や社会的財産を食いつぶしていることを心配するべきだろう。

### 編集部よりのお知らせ



「ドナウの四季」のHPが完成しました。これまで掲載されたすべての原稿を読むことができます。

<http://www.danube4seasons.com>

皆様の原稿をお待ちしています。エッセイ、ハンガリー履歴書、自己紹介、サークル紹介などの記事をお寄せください。提出いただいた原稿は、紙面統一の編集のために修正することがあります。修正した原稿は執筆者の校正をお願いしています。

原稿は電子ファイルで、morita.magyar@gmail.comへお送りください。Word文書あるいは一太郎文書でお願いします。EXCEL形式での提出はお控えください。写真および図形は別ファイルで送付ください。







## 留学生自己紹介

## 己で拓く道

リスト音楽院ヴァイオリン科

長坂 拓己

2013年に私は初めてブダペストを訪れました。ハンガリー、オーストリア、チェコを回る王道のツアー旅行でした。初めて降り立つヨーロッパに私の気持ちは沸き立ちました。しかし、このブダペストという土地は初めて訪れたのにそんな気がせず、それどころかむしろ、何か懐かしい場所に帰ってきたような、そんな気持ちすら覚えました。当時の私は30人近い生徒を抱え、岡山県のオーケストラに所属したばかりでした。心の奥にはずっとヨーロッパでの暮らしに憧れはあったのかもしれませんが、現実的にはそれは不可能だと思っていました。幸い

中では決まっていた。なぜか故郷のように感じたハンガリーです。

そしてそれを決心してからというもの、すべてが私の背中を押してくれるように感じました。このチャンスを逃さない、もう今がラストチャンスなのだからはっきり分かるくらい強い追い風が吹くのを感じました。

日本でお世話になっていた方々に日本を出るという報告をした時も全員が、行ってらっしゃいと送り出してくれました。ハンガリーに知り合いなどいませんでしたが、とりえずその日寝泊まりできる場所があればいい、と宿だけ決めてスーツケースとヴァイオリンを持ち、日本を飛び出しました。

言葉通り右も左もわからない私を、たくさんの人たちが助けてくれました。出会うハンガリー人も日本人も皆が心温かく迎えてくれました。リスト音楽院に入ることすら決

ハンガリーという風土で、拙いながらにハンガリー語を話し、こちらの食材で自炊をしながら、この目にドナウの真珠と呼ばれるこの街を目に映し、毎日のようにある音楽会に出向き、そのすべてが自分の感覚を研ぎ澄ましてくれたように思います。

私はこの夏に日本に帰りますが、世界中どこにいても自分が輝く場所は自分自身で作らなくてはならないと思います。日本に帰ってからもここで手にした自信と力を信じて、自分らしいステージを展開してゆきたいと思います。世界中で様々な危険な事件や天災が起き、その度に音楽を続けられることは決して当たり前ではないことを認識します。

しかし、だからこそ音楽というのは美しく儂いのだと思います。私の音楽を聴いてたくさんの方のハンガリー人が拍手をくれ、ブラボー

の掛け声をくれました。そこには国境を越えた小さな平和がありました。一つの楽器と音楽が国を超えて人をつなぐ瞬間をここで何度も感じました。言葉は通じにくくとも、楽器を持って集まれば生まれた国など関係なく対話ができました。

友人宅に楽器を持って集まり遅くまで音を出しながらお酒を飲んだり、地方に観光に行ってみたり、あまりにも日本風のラーメンが食べたくて麺から打ってみたり、書き出せばきりが無いほど素敵な時間を過ごしました。

両親のくれた拓己という名の通り、己で道を拓く人生はこれからも長く続きそうですが、ここハンガリーで暮らした日々はこの先もかけがえのない宝となりそうです。

最後に日本から私を応援して下さった皆様、こちらでお世話になったすべての方々に、ただただありがとうございますと心よりお伝えしたいです。

(ながさか・たくみ)



にも日本の大学を卒業してからは多くの仕事にも恵まれ、それらは、やり甲斐もあるものでした。

しかし、ある時、自分の中に、いつまでここで、このような日々を続けていくのだろうという漠然としたモヤモヤがある事に気づきました。どこかへ飛び出さなければならぬ、そう強く思いました。そのどこかは心の

まずにハンガリーへ来た私でしたが、素晴らしい師匠とも出会う事が出来、実力、感性豊かな同期にも恵まれ、学内外で沢山の本番の機会をいただきと、1年間という短い在籍期間とは思えない濃い時間を音楽院で過ごすことも出来ました。

私にとってこの1年半に渡るハンガリーでの生活で得たものは音楽に限りません。

# カーロリ大学日本語プレゼンテーションコンテスト

カーロリ・ガシュパール大学 後藤 将太

題名だけを見ると、何かちょっと本格的なイベントかのように感じるかもしれないが、なんのことはない自分の勤務先の大学での授業の一環として行っているクラス内の発表会である。しかし、これをやることにはとても深い意味があると思っているし、上記カーロリ・ガシュパール大学に赴任して以来3年間これを続けてきて、非常に大きな成果があったと感じている。私のこの大学での仕事、つまり日本語の授業は、かなりやりがいのある仕事で、それぞれどのクラスの授業も楽しみながらやれているのだが、特にこのプレゼンテーションコンテストをさせるクラスの授業は、1年の中で特に楽しみにしていることである。だから、この機会をお借りして、このプレゼンテーションコンテストの中で特に印象に残った発表をいくつかご紹介したい。

まず、このプレゼンテーションコンテストの概要をご説明する。本コンテストは本大学の秋学期の通常授業期間、つまり9月から12月の間に行われ、3年生たち(入学前からの既習者である2年生も含む)が履修する「会話5」と呼ばれているクラスで行われている。

最初に、クラスの中でいくつかのグループを作り、各グループ内で協力しあって準備をする。そしてコンテスト当日、日本人ゲストの方々と私による審査員が、最もよい発表をしたグループを選ぶ。

この期間コンテストは2回実施され、使用している教科書に沿って第1回目は「教育」をテーマに、第2回目は「住宅」をテーマに各グループがプレゼンテーションをする。カーロリ大学の日本学科の教育目標の一つとして「ハンガリーのことを日本語を使って説明できるようになる」というのがあるので、それぞれのグループの課題は、ハンガリーで作られた「データ」をもとにハンガリーの現状を説明するということである。

最初にご紹介するのは、「教育」について発表したグループの中で最も高い評価を得たものである。

以下のデータを見ると、カーロリ大学の文学部の中で、心理学専攻が入学希望者、学生数ともにトップで最も人気がある専攻であることがわかる。日本学専攻は英文学専攻に次ぐ3位で、この5年間で入学希望者、学生数ともに増加し続けており、人気が高まっていることは明白である。

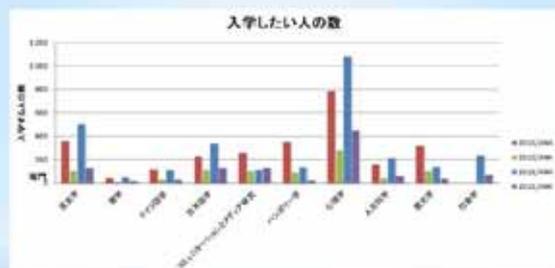
実は、このグループがクラスで1位に選ばれた決め手となったのは、最後のまとめの言葉だった。「日本学の人気が高くなると、個人的にはライバルが増えて大変になるけれど、もっとたくさんの人に日本のことを勉強してもらって日本の魅力を知ってもらいたいです」。

※2010年と2015年のデータ

専門	2010/ANA	2010/ANK	2015/ANA	2015/ANK
英文学	363	103	501	129
数学	47	11	56	22
ドイツ語学	179	28	113	28
日本語学	225	112	339	129
コミュニケーションとメディア研究	256	103	113	129
ハンガリー学	354	95	132	25
心理学	788	280	1083	452
人文科学	158	48	218	59
歴史学	322	101	137	41
社会学	-	-	236	70

※教育機関によって作られました

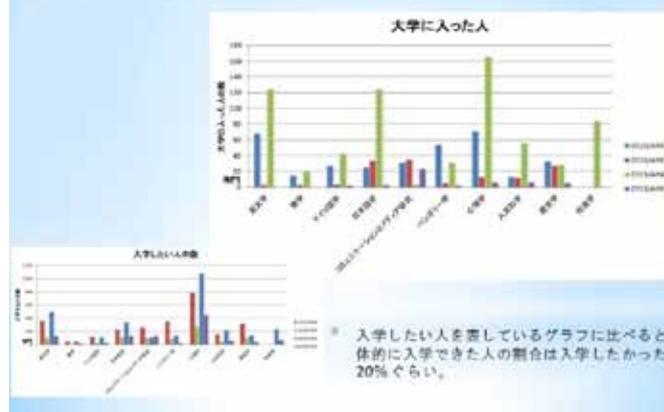
※教養学部専門に入学したい人の数



※心理学を習いたい人の数は他の専門の2、3倍ぐらいです。

それに対してオランダ学の人気は心理学の21分の1です。

※この棒グラフは入学できた人の数を表しています



※入学したい人を表しているグラフに比べると、全体的に入学できた人の割合は入学したかった人の20%ぐらい。

次にご紹介するのは、「住宅」について発表したグループの中で最も高い評価を得たものである。

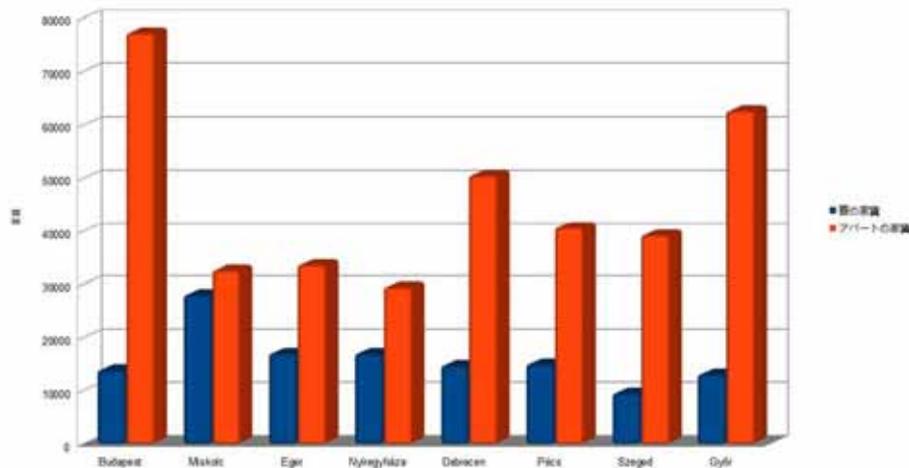
一番上の図は、ハンガリーの主要な都市の平均的な家賃を示したものである。ハンガリーの東部は比較的財政状況が厳しいという話をよく聞くが、この図を見ると、ハンガリー第2の都市であるデブレツェンは別として、東部の都市の家賃が比較的安いことから、ハンガリー東部の財政事情がうかがえる。

おもしろいことに、二番目の図では比較的に家賃が安い東部のミシュコルツの寮費の平均が最も高く、逆に平均家賃が最も高いブダペストの寮費の平均は割安になっている。このことから、財政的に厳しい地方都市が大学寮などの公的機関になかなか資金を回せないという現状も垣間見える。

このグループの発表の良かったところはもう一つあり、それは学生寮に住んでいる人が寮生活の利点を話し、アパートを数人でシェアして住んでいる人がその利点を話して「発表のまとめ」としたことである。



アパートと寮化ベラフ



次に、日本学専攻の会話の授業の中の最上級クラスである「会話8」と呼ばれている授業の中でも、図やグラフを使いながらプレゼンテーションをするという活動をしているので、その中でも最も興味深いものを番外編としてご紹介させていただきます。

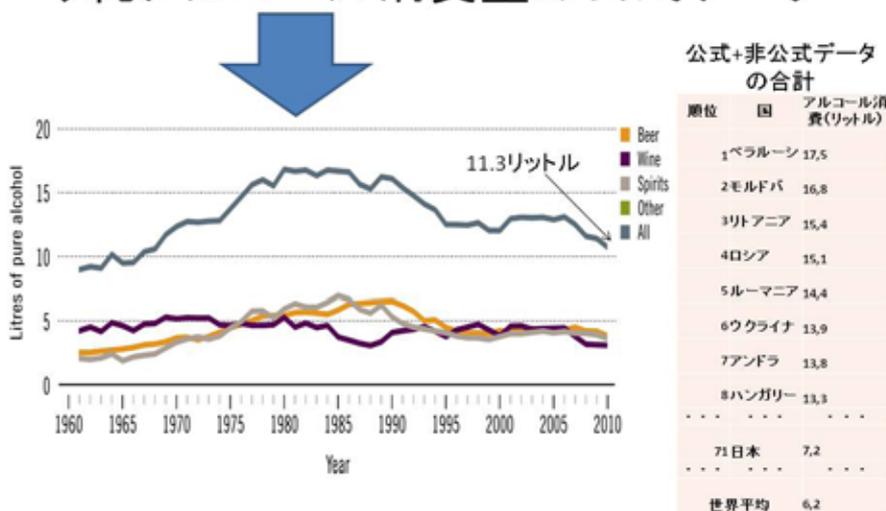
一つ目のグラフで「年間一人当たりの純アルコール消費量」でハンガリーは世界第8位であり、ハンガリー人がいかに酒好きの国民であるか、ということがわかる。因みに日本はこのデータでは72位。

日本人も酒好きな国民だと思われるが、この点でハンガリーには遠く及ばないようである。

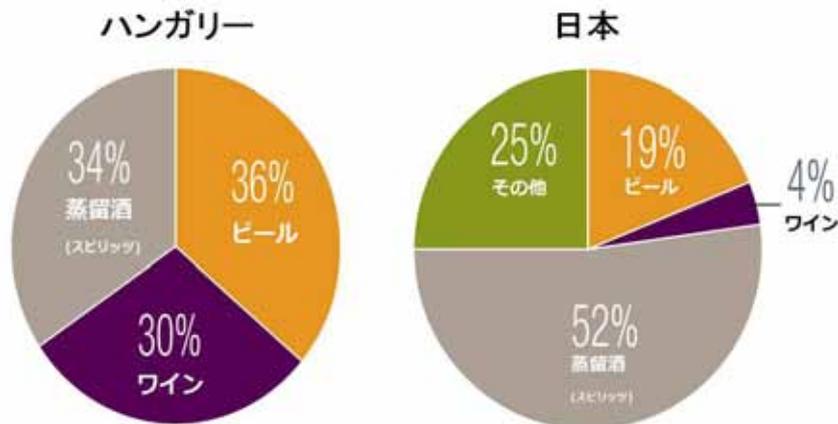
そして、このグラフで注目すべきなのは、やはりユーラシア大陸の北部に位置し、厳しい寒さからアルコール度の強い酒類を好んで飲む国々が上位を占めているということである。

二つ目のグラフは、よく飲まれているアルコール飲料の種類ハンガリーと日本の比較である。ハンガリーではパーリンカなどの高アルコール度の酒が好まれているので、蒸留酒が34パーセントを占めるということは容易にうなずける。日本でも焼酎などの蒸留酒が人気なので、この割合が52パーセントとなっているが、この二国のアルコール消費量の差は、日本ではワインがたった4パーセントにすぎないのに対し、ハンガリーでは30パーセントであることから生じると考えることもできるだろう。

## 成人(15歳以上)の1年間の1人あたり純アルコール消費量の公式データ



## アルコールの種類別の割合



このように、本大学でのプレゼンテーションを行う授業は、学生たちの日本語力向上に役立つばかりでなく、私や審査員として来てくださった日本人のゲスト審査員の方々がハンガリーという国を知るためにいろいろな興味深い情報を得ることに大いに役立ってきたのである。

カーロリ・ガシュパール大学日本学専攻では、プレゼンテーションコンテストの審査員をしてくださる日本人ゲストの方を募集しております。このコンテストに参加されれば、普段の生活からはなかなか知ることができないハンガリーの一面のなにかしらをきっと発見できるはずです。学生たちも多くの日本人の方が来てくだされば、きっともっともっとがんばってくれるでしょうから。

(ごとう・しょうた)

## 東京はトキオ、大阪はオサカ

甘利 晴子

ハンガリー語で東京はトキオ、大阪はオサカと言うらしい。現地校で日本の文化を教えるボランティアを始めて2年と少しになるが、授業でこれを聞いた時は驚いた。本当は間違っているけど正しいハンガリー語。言葉や異文化を知ることは面白いと思う。

2014年、夫の仕事の都合で来洪した。こちらに来てすぐに始めたことが、現地校でのボランティアであった。日本人学校と同じ敷地内にあるVirányos校で、小学校3年生を対象に「雛祭り」、「子どもの日」など、季節に合ったテーマで、日本の文化を子ども達に紹介するのが主な活動である。時には折り紙や粘土を使って工作をしたり、ゲームをしたりする。遙か遠いハンガリーという国で、日本語や日本の文化を学んでいる人がいるとは想像もしなかった私にとっては、日本の文化が学ばれているということ自体に大きな驚きを感じると同時に、と

ても嬉しい気持ちにさせられた。

Virányos校には、日本語の教科書もあり、「あいうえお」の練習から、挨拶、日本の童謡まで紹介してある。ハンガリーの子ども達が、日本の文化をどのように学び、どのように理解し、どう感じるのか大変興味深かった。

ボランティアを始めた当初は、日本の子ども達との違いに驚かされた。日本の文化を学ぶ子ども達の表情、行動、発言のすべてが新鮮で、心動かされた。「福笑い」をした時には、子ども達は当然の様に、黄色や茶色で髪の毛を描き、青や緑で目を塗りつぶした。日本人にはない感覚にハッとしたのを覚えている。

「お箸」の授業をした時には、持ち方に苦労していた。つかむとなると、さらに難しくうであった。日本では当たり前を使う箸も、こちらでは馴染みのないものであることに

気づかされる。反面、私たちが手こずるナイフとフォークは、幼い子が器用に使いこなす。文化の違いは、感覚や表現方法、スキルにも違いを生むことが分かる。

一方、子ども達の内面に違いはない。丁寧に色を塗る子、後先考えずに自由に作る子、おしゃべりしながらマイペースで作業をして間に合わない子、そしてその子を手伝ってあげる子。国籍や言葉が違っても、その様子は日本の子ども達となら変わらない。日本と同じ様に、いろいろな子がいてホッとする。福笑いを作り終えた後は、二人一組でいざ実践。目隠しを取って大爆笑。お決まりのリアクションも日本の子ども達と同じであった。

教えることにも慣れてきた2年目には、子ども達の興味を惹くものは何かということに気づいた。意外にもそれは「違い」ではなく、「共通点や類似点」であった。



「相撲」を扱った授業をした時、力強く土俵に上がる力士の写真をみた子どもたちは、「レスリング!」と言った。子ども達はいつも、自分たちの身近にあるもの、知っているものに置き換えて新しいことを理解しようとする。その姿は何だか愛おしい。

ハンガリーのスポーツ選手とはかけ離れた体型の力士の姿や、儀礼的な手続きを踏んで行われる取り組みは、子どもたちにとって馴染みがない。しかし、現在日本で活躍しているハンガリー人力士を紹介したことで、子どもたちはその活躍ぶりを知るために、どのような稽古をしているのか、またどのような生活をしているのかを知りたがった。どこかにちょっとした接点を持たせることで、文化はぐっと身近になる。

だからもちろん、雛人形のお内裏様は「キラ〜イ!」。そして節分の鬼は「ブショー!」なのであった。

3年目になった今年は、日本の文化だけでなく簡単な挨拶や言葉も教えている。授業の導入部分でちょっとした挨拶の練習を

したり、授業で使った言葉について説明をしたりすると、子どもたちは嬉しそうにノートに書き取り、何度も繰り返し読む練習をする。授業の合間や授業の前後でも、積極的に「おはようございます」や「ありがとうございます」の言葉が出てくるようになった。子どもたち自身も、日本語を使うということに喜びを感じているようであった。

また、私自身も簡単なハンガリー語であれば理解することができるようになってきた。そのため授業の前後や机間指導の際、簡単なハンガリー語を使って会話できるようになった。子どもたちは身振り手振りを交えて、分からないところを聞いてくれる。ハンガリー語を使う私に対して、興味深げだ。私の怪しい発音にクスッと笑い、恥ずかしそうに受け答える姿は本当にかわいい。互いの言語について少しでも理解しようという姿勢が見られると、自然とお互いの気持ちも伝わってくる。言語理解は異文化理解においてとても意義のあるものだと感じた。

「異文化理解」という仰々しい名前も、現

地の子ども達と触れ合ってみると、そんなに難しいことでははいと感じるようになった。単純に「違い」に驚けばいいし、「似てるなあ。」と、知っていることに置き換えて考えてみるという。

そして、やはり「言葉」は「文化」そのものである。「言葉」を知れば、「異文化」はどんどん近づいてくる。私が通う近所のスーパーは「Rózsadomb」にある。最寄りのバス停は「Pitypang utca」。それぞれ、「バラの丘」、「タンポポ通り」という意味だ。なんて素敵な名前だろう。言葉が全く理解できなかった私の世界は非常に狭かった。しかし、単語を一つ覚えると世界がどんどん広がっていった。

言葉を学ぶとその国の文化が見える。そして人との繋がりもどんどん広がる。ハンガリー語を教えて下さっている先生、そしてこの国で出会えたすべての人に感謝し、これからもハンガリーの人、文化、言葉にもっともっと触れていきたい。

(あまり・はるこ)

## 桜 DE SIGN

CI、広告、ロゴ、ホームページ等  
名刺1枚からご希望の言語にて  
デザイン致します。

各種パッケージ、インテリアのデザイン、  
内装工事、翻訳から印刷まで  
幅広く受け承っております。  
お気軽にお問い合わせ下さい。



SAKURA DESIGN: info@innerdesign.hu  
Inner Design Group · 1021 Budapest, Bognár utca 7.  
Tel/Fax: 1-200 3213 · Mobile: 06 20 480 4431

www.innerdesign.hu

## Propart Hungary Bt.

各種コンサート企画・製作・国際交流イベントを中心とした業務の運営。ハンガリーを拠点にグローバルな企画・マネージメント展開を行っています。お気軽に、御相談下さい。

- ・音楽企画/マネージメント
- ・若手音楽家の育成サポート
- ・国際交流事業企画運営
- ・留学/音楽研修サポート
- ・短/長期賃貸物件仲介
- ・各種通訳
- ・翻訳サポート
- ・買い/レンタルピアノ仲介
- ・輸入/輸出楽器仲介

ハンガリー国内出張演奏、  
各楽器講師紹介なども随時承っています。

### Propart Hungary Bt.

Address: 1089 Budapest, Kóris utca 25. II/6  
Tel&Fax: +36-1-786-7846  
Mobil: +36-70-3815548  
e-mail: propart@chello.hu  
web: http://propart.client.jp/

Propart

## EURO-2016:2016年サッカー欧州選手権

盛田 常夫

この6月からヨーロッパはサッカーの欧州選手権で燃えている。長らく欧州選手権から遠ざかっていたハンガリーは、予選のプレーオフでノルウェーを破り、かろうじて本戦に参加することになった。実に44年振りの出来事である。フランスの各地で開催される今大会には、ハンガリーからも数万人のファンが応援にでかけ、会場は熱気に包まれた。かつてのサッカー王国ハンガリーがこんなに長きにわたって欧州選手権の出場を逃していたのは不思議だが、実は欧州選手権に参加できる国はきわめて限定されていたのだ。

は沸きに沸いている。欧州選手権初勝利をあげたポーランドが快進撃を続けているのも特筆される。その反対に、前回優勝のスペインが決勝トーナメント1回戦でイタリアに敗れ、姿を消した。イングランドもアイスランドにまさかの負けを喫し、サッカーというスポーツの難しさと面白さを見せてくれた。

さて、そのハンガリーだが、ポルトガル、オーストリア、アイスランドの国に入り、予選リーグを戦った。戦前の予想では、アイスランドと3位を争うのが関の山と考えられていた。ポーランドやオーストリアには欧州

うが。

もう一人、37歳のゲラはウエスト・ブルムウィッチ・アビオンの中盤の選手として、プレミアリーグで活躍し、長らくハンガリー代表の中盤の要としてチームを引っ張ってきた。予選リーグのポルトガル戦でゲラが決めた最初のゴールは、グループリーグでもっとも美しいゴールに選ばれた。しかし、年齢から来る衰えは隠せなかった。

今回のハンガリーチームを牽引したのは、サイドハーフのジュジャークである。日本チームに例えると、右サイドを張るときの本田圭佑のような存在である。ポルトガル

順位	チーム	試合数	勝	分	敗	得点	失点	差	勝ち点
1	ハンガリー	3	1	2	0	6	4	2	5
2	アイスランド	3	1	2	0	4	3	1	5
3	ポルトガル	3	0	3	0	4	4	0	3
4	オーストリア	3	0	1	2	1	4	-3	1

EURO-2016の出場国は24カ国だが、その前のEURO-2012の出場国は16カ国に限られていた。さらに遡って、1980年から1992年まではわずか8カ国、1960年から1976年までは、予選リーグを戦った後に、4カ国だけが本戦を戦う形式をとっていた。要するに、長い間、欧州選手権は予選を勝ち抜いたチームの決勝トーナメントのような短期決戦だったのである。

今回の選手権予選にはUEFA(欧州サッカー協会)加盟の55カ国が参加し、開催国フランスを除く54カ国が23枠を争った。オランダが本戦に進めないなど、本戦に出場するだけでもたいへんな大会である。ところが、出場国の枠が広げられたことにより、人口50万人にも満たないアイスランドやサッカーとは無縁と思われていたアルバニアが出場し、かつ勝利を重ね、それぞれの国

リーグで活躍する選手が多数いる。ところが、ハンガリーの選手のほとんどがポーランドリーグやトルコリーグで活躍する選手で、わずかにFWのサライがドイツリーグのハノーファーやホッフェンハイムに所属していたが、常時スタメンを勝ち取れていたわけではない。

もっとも、ゴールキーパーのキライは長らくドイツリーグのヘルタ・ベルリンで正キーパーを張っていたが、すでに40歳である。だぶだぶのトレーナーのズボンをはいているので、パジャマキーパーと名付けられたが、ヘルタ時代からこのスタイルだった。多分、着心地が良いのだと思うが、とっさの動作の時には膨らんだ布地が邪魔になるはずだと思うが、ドイツでもハンガリーでも、監督のこのスタイルを問題しなかったようだ。私が監督だったら注意すると思

戦では2本フリーキックを決め、一躍その名を知られることになったが、すでに欧州各国のリーグを経験しており、現在はトルコリーグのブルサルスポールに属している。

さて、予選F組に入ったハンガリーだが、大方の予想に反して、無敗の1位で決勝トーナメントに進出した。初出場のアイスランドも番狂わせの2位で予選を通過し、しかも決勝トーナメント1回戦でイングランドを破ったのだから、国中が大騒ぎである。

ハンガリーチームの選出の市場価値がおおよそ30億円と評価されていて、ポルトガルはロナウド1人の市場価値が140億円を超える。グループリーグ最終戦で常にポーランドに先行してリードを保ったが、最終的に引き分けに終わった。しかし、それによ

って、ハンガリーは予選リーグをトップで通過したのだから、国内のいたるところで大騒ぎになった。ブダペストでも、各所にPV施設が設置され、試合後に多くのファンが環状通りを埋め尽くし、バスト電車は数時間にわたって運行を停止した。日本のように警官が「交通の邪魔になりますから立ち止まらないでください」などという野暮な警告をおこなうことなく、この夜は各所で乾杯が繰り広げられた。

残念ながら、決勝トーナメント1回戦では、世界ランク2位のベルギーに完敗した。78分に2点目を入れられるまで、同点狙いで果敢に攻め込むチャンスは何度もあったが、ベルギーは試合開始から前線で圧力をかけ、自陣で球を奪ってからの速攻は目を見張るものがあった。2点目を決められてからは気落ちし、結果的に4-0で完敗となったが、チーム力の違いをまざまざと見

せられ、ハンガリーのサッカーファンも納得の敗戦となった。

こういう代表の活躍があれば、再び、サッカーへの期待が膨らみ、若い世代が活躍する時代が来るかもしれない。そういう期待を抱かせるEURO-2016のハンガリーであった。

(盛田 常夫記)

### 2017年度新小学一年生入学説明会のご案内

当校ではこの度、平成29年度（2017年度）新小学1年生対象の入学説明会を下記の通り行います。入学のご予定、ご関心のある方は、どうぞ足をお運びいただきたく、ご案内致します。

**日時： 2016年9月24日（土）**

**09時50分（二限目）～ 現小1学年 クラス見学**

**10時55分（三限目）～ 入学説明会**

・お子様とご一緒でも、保護者の方のみでも構いません。

**場所： みどりの丘日本語補習校（Törökvész小学校内）**  
1025 Budapest, Törökvész út 67-69

資料準備のため、ご出席を希望される方は、**2016年9月22日**までに下記メールアドレスまでご連絡くださいますようお願い申し上げます。



[midorinooka\\_budapest@zoho.com](mailto:midorinooka_budapest@zoho.com)

また、当日はご都合がつかないものの、資料がご入り用の場合や別日での設定をご希望の場合も9月22日までにご連絡頂けると幸いです。運営委員一同、心よりお待ちしております。



## みどりの丘補習校



## 春の遠足

望月 美和

5月28日(土曜日)汗ばむほどの快晴の中、みどりの丘日本語補習校の遠足が行われました。

遠足は、補習校に通う子どもたちが唯一校外で行う学校行事です。今年は、ミレナリッシュパークからヤーノシュ山まで、課題をこなしながら徒歩とバスで向かうオリエンテーリングでした。全校児童生徒が5つの班に分かれた後、各班で協力しながらバスのチケットを探し出し、自分たちの力で目的地まで到着しました。バス停を乗り過ぎたり、目的地までバスが行かず、途中山の中を歩かなければならなかったりと、班ごとに様々なドラマがあったようです。それでも、高学年は低学年を励まし、低学年は高学年を慕って、子どもたち全員とてもいい笑顔でゴールしてきました。

昼食後は、班ごとに日本の唱歌を覚え、みんなの前でパフォーマンスを披露しました。歌に振りをつけたり、衣装や小道具を使ったりと、それぞれに趣向を凝らした出し物に会場は沸いていました。ここでも、みんなのアイデアを出し合って、力を合わせ

て、活動している様子が見られました。午後は、全員でレクリエーションを楽しんだり、高学年と低学年に分かれて、こま作りや手遊び歌など日本の文化や遊びに触れる活動をしました。

補習校の十数年の歴史の中で、班に分かれて公共の交通機関を使うのは、今回が初めての試みでした。事前指導や当日の朝は、子ども達に事故のないよう中学生が活動中のルールを楽しくわかりやすいように繰り返し説明してくれました。

到着をゴールで待つ身には「中学生はリーダーの役割をちゃんとこなせるだろうか」、「低学年の子どもたちは、いうことを聞けようか」、「子どもたちは、事故にあたりたくないだろうか」と心配なことばかりが頭に浮かびます。しかし、その心配は杞憂に終わりました。一日の終わりに各班についていた講師の先生から子どもたちがもらった賞状には、「みんながよくがんばったで賞」、「みんなをまとめたリーダーだったで賞」、「みんなで力を合わせたで賞」など、数々の子どもたちのがんばりを示す言葉が並んでいました。大きな駅を徒歩で横切り、バスに乗って目的地に着くまで、リーダーはどんなに気を使ったことでしょう。小さい

子はリーダーの手を必死に握ったことでしょう。大きな事故やけががなかったのも子どもたち一人一人ががんばったからなのだなぁと胸が熱くなりました。

補習校は、月曜日から金曜日まで現地校や英語の学校に通う子ども達が、日本語学習のために週末に通う学校です。平日の学校で疲れ、週に一度の授業のためにたくさん宿題をしなくてはならず、通い続けるのは簡単なことではありません。今まで話したことのない友だちや先生と知り合い補習校生活を楽しくする、励ましあえる友だちを作る、それらが補習校に通うモチベーションにつながればいいなと毎年遠足を開催しています。今年の遠足でも心細さから泣き出してしまった1年生にやさしく声をかける様子や異なる学年の子どもや先生と仲良く語らう姿を見ることができ、「児童生徒同士、児童生徒と講師間の親睦を図る」という大きな目的は、達成できたように感じます。

遠足を実施するにあたってご協力くださったみなさま本当にありがとうございました。

(もちづき・みわ)





**たのしかったえんそく  
ヴァシユ せいや (小2)**

5月28日に、みんなでえんそくにいきました。ほくのはんの名まえは、バズルはんでした。はじめは、みんなでもんだいが書いてある紙を十まいさがしました。ごみをたくさんひろったり、かえるとびをしたいしました。干ケットをもらってバスにのいました。ヤーノシユ山についておべんとうをたべました。そとであそんだり、たてものの中で手あそびをしたいしました。花一もんめをはじめてやりました。ほくたちのはんがかちました。とてもたのしかったです。

**アイスクリームはん  
ふかまち ななみ (小2)**

5月28日、わたしは日本忍学校のえんそくにいきました。さいしょにしたことは、日本忍のも字をふくろから見つけることでした。わたしたちはせけんぶ見つけることができました。それが終わったあとは、くろいぼうしの人に干ケットをもらいにいきました。もらったあと、あごしおやつをたべました。そしてあるいてバスでいはいき、バスにのいました。バスからおいたあと、広い大きいわでほかのチームのみんなにあいました。そこでみんなとおいしーだいあきなおべんとうをたべました。

そのあとは、中に入って、うたのパフォーマンスをしました。わたしのチームはどんぐりころころをうたいました。みんなとてもじょうずでした。そのあと、大きなわでおにほっこをしてあそびました。また中にもどって、花一もんめ、おちゃらかほいをしてあそびました。おうちに帰るまえにしょうじょうをもらいました。

わたしは、おがあさんがつくったおべんとうをはんのみんなといっしょにたべたこと、日本忍のも字をはんのみんなと見つけることができたことがとてもたのしかったです。





## コルナイが綴る 20 世紀中欧の歴史証言

池田信夫「21世紀最初の10年ベスト経済書」第2位にランク  
「週刊ダイヤモンド」2006年ベスト経済書第9位にランクイン

# コルナイ・ヤーノシュ自伝

—思索する力を得てコルナイ・ヤーノシュ【著】 盛田常夫【訳】

◆好評発売中！ ◆定価 4935 円（税込） ◆A 5 判 / ISBN 4-535-55473-0 日本評論社



## 体制転換 の経済学

黄色の教科書シリーズで知られる専門学部の定番テキスト。体制転換の理論と転換直後の現状を分析。各大学で教科書として使用。

盛田常夫著

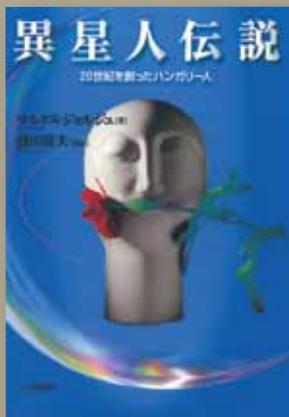
### 第一部 社会主義経済の失敗

社会主義崩壊をもたらした社会的退化への論理を構築。交換経済と再分配経済の比較分析に新たな視点を提供。

### 第二部 ポスト社会主義経済

体制転換の過渡期の問題をすべて取り上げ、解決の道筋を示す。地域による体制転換の違いを解明。

■ 新世社 新経済学ライブラリー-20 定価2781円(税込)



## なぜハンガリーは独創的な科学者を輩出したのか

20 世紀を創ったハンガリー人 マルクス・ジョルジュ【著】 盛田常夫【編訳】

■ 定価 3045 円（税込） A 5 判

■ ISBN 4-535-78331-4

# 異星人伝説

「週刊文春」(米原万里)、「週刊ダイヤモンド」(北村伸行一橋大学教授)で書評。  
ハンガリーは 20 世紀の科学の発展に貢献した多くの頭脳を輩出した。大きな足跡を残した科学者たちの評伝。

## 体制転換20年の歴史的・理論的総括の書



# ポスト社会主義の政治経済学

## 体制転換20年のハンガリー：旧体制の変化と継続

新しい概念を駆使して、体制転換以後の中欧社会の状況を分析。

日本経済新聞(2010年3月21日)ほか、多数の書評。

旧来の定説を覆し、新たな知見を広める革新の書。

盛田 常夫著 日本評論社 定価3800円